



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



初めての「作文」に挑戦して

自分のこととして歴史を学ぼう

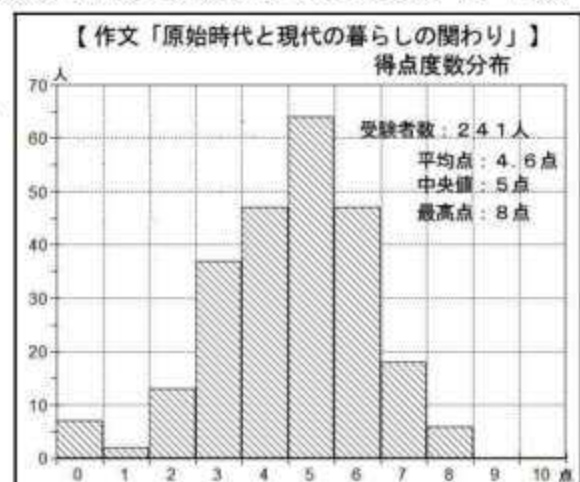
1 度数分布で「作文」の成績結果を見る

歴史を学んで初めての「作文」を書いてもらいました。「作文」に挑戦した感想はどうですか？ 君は採点結果に納得がいけますか？

採点結果をグラフで示すと、右の「作文『原始時代と現代の暮らしの関わり』得点度数分布」のようになります。この度数分布は、同じ得点の人が何人いるかを集計して表した物です。今回の「作文」では5点(10点満点)の人が最も多く、中央値(順位が真ん中)も5点という結果になりました。

満点の答案はなく、7点以上が24人、2点以下が22人でした。

この度数分布は、厳しい結果です。君たちの基礎学力からすると、もっともっと高い数値が出たはずなのに。残念です。



2 自分のこととして歴史を学ぶ

さて、歴史は他人事(ひとごと)ではありません。「自分のこととして学ぶ視点」を持って初めて学ぶ意味が見えてきます。言わば、歴史的現象の中に、自分のルーツ(祖先)を探すような気持ちを持つことが大切なのです。そう考えると「暗記するだけ」という発想もなくなるはずで、言い換えると、歴史を学ぶことは、自分探しの一つの方法だと言っても良いでしょう。

今回の作文の課題には、上のような意味がありました。厳密に言えば、原始時代のこととは日本の縄文時代で具体的に学びます。けれども、縄文時代の学習に入る前に、世界の原始時代から「祖先の暮らしと現代の暮らし」の関係を「自分の産まれる前」として考えて欲しかったので、中間試験の課題として選択しました。世界の原始時代と古代の歴史学習の後には、いよいよ日本の歴史に入ります。今度こそ、「歴史を自分の生命の過去のこととして」考えて学習に取り組んで欲しいと思います。

3 「作文」に、何を、どのように書けば良かったのか

「定期試験の作文」で求めている「説明文」は、感想文ではありません。今回の答案の中には、感想文を書いている人が多くいましたが、評価しませんでした。

では、歴史の「作文」をより良いものにするためには、どうすれば良いのでしょうか？ 少しだけ、ヒントを解説しておきましょう。

① 題意に答えること。試験ですから、題意(問題の趣旨)から外れると、何百字の作文を書いても0点です。今回の時代設定は、「原始時代あるいは石器時代」であり、古代でもありません。ここで、「昔」という言葉を使ってしまうと、「時代」という物差しがなくなるので要注意です。すると、社会事象の変化や進化を時間的な流れの中で説明することが曖昧になり、中途半端な作文になります。

② 次に、作文や論文を書く時には、比較するものを説明する文章を書くことが大切です。

たとえば、原始時代と現代の暮らしの関係を考えるためには、この二つの時代の暮らしが分からないと比較できません。「特徴」は複数の事象を比較して分かることなので、両方のことを説明する文章が最低限必要なのです。

したがって、今回の課題では、原始時代の暮らしと、現代の暮らしの様子を具体的に説明する文章を書く必要があります。スーパー・マーケットやゲーム機のことを現代を象徴する具体例としてあげる答案が多かったです。

③ さらに、論点のとらえ方を説明する文章を書くことも大切です。

論点とは、説明を求められている課題の中心や、理解の仕方^{しめた}で結論が左右されるような場面(話題)のことです。たとえば、同じテーマで書かれた書籍^{しよせき}を読むと、著作者によって説明の異なることが多々あります。それが研究者の世界の論点なのです。また、グループ学習などでも意見が分かれます。それが中学生にとっての具体的な論点です。

作文には、自分の意見を書くことが最も重要です。けれども、自分の意見だけではなく、教科書に書かれていること、研究者の意見や書籍の記述内容や、自分の意見とは異なる友達の意見を説明する文章などがあると作文の説得力がさらに増します。



④ 論点の指摘や説明にキーワードを使うことが大切です。キーワードを使うことで、簡単に物事を説明できます。普段の学習はキーワードを習得するために時間を費やしていると言っても良いくらいです。

キーワードを覚えることが学習の目的ではなく、キーワードを使って考えたり、説明したりする力を培うために学習しているのです。